放射線科

○ 放射線科／核医学診療科／放射線腫瘍科の概要

１．放射線科／核医学診療科／放射線腫瘍科の特徴

本院は日本医学放射線学会、日本核医学会、日本放射線腫瘍学会にて卒後研修機関として認定されている。本プログラムでは放射線科医としての基本的な知識と技術の習得と医療における全人的な人格の高揚をはかり、臨床各科と協調して医療に当たれる医師の育成を目的とする。放射線診断学、各種画像診断学、核医学、放射線腫瘍学、および放射線の防護と安全について学習する。画像の成り立ちが分かり、適切な画像検査が依頼できるように学ぶ。放射線治療の適応が分かる。マンツーマンの指導方法をとる。レポートは専門医によるダブルチェックをうける。

２．診療実績

１）放射線･画像診断 X 線検査、CT、MRI、血管造影、核医学検査の施行と読影
２）放射線治療患者の適応を決め、治療計画を立て、治療にあたる

３．診療・教育スタッフ

小澤　栄人　（教　授）：画像診断、MRI
松成　一朗　（教　授）：核医学
井上　快児　（准教授）：画像診断全般
大澤　威一郎（講　師）：画像診断全般
名川　恵太　（講　師）：画像診断全般

４．臨床研修プログラムの特色

看護師や診療放射線技師との協調性を養い、患者を中心に他科の医師とのコミュニケーションがとれる医師をそだてる。初期 2 年間の選択研修期間では、画像検査の適応がわかり、画像の成り立ちを理解し、臨床医として自立したときに患者の気持ちになり画像検査をオーダーできる医師になることを目指す。埼玉医科大学病院では、CT、MRI を各 2 週ずつローテートする。希望により 1 週間、核医学もしくは治療のローテートを行う。

５．研修指導責任者

小澤　栄人　（教授、診療部長、研修医指導医）
松成　一朗　（教授、研修医指導医）
井上　快児　（准教授、研修医指導医）
大澤　威一郎（講師、研修医指導医）

６．放射線科週間・月間スケジュール

（月）	11：00	－	11：30	画像　カンファレンス 1/week
	15：00	－	15：30	研修医カンファレンス 1/month
	16：30	－	18：00	婦人科画像病理カンファランス（日高）1/week
（火）	15：00	－	15：30	研修医カンファレンス 1/month
	17：00	－	17：30	産婦人科画像カンファランス 1/month
	17：30	－	18：30	泌尿器科カンファランス 2/month
（水）	15：00	－	15：30	研修医カンファレンス 1/month
	17：30	－	18：30	埼玉医大画像診断カンファランス（講演会） 2/year
（木）	15：00	－	15：30	研修医カンファレンス 1/month
	18：00	－	18：30	骨肉腫カンファランス （日高）1/month
（金）	12：00	－	12：30	抄読会
	15：00	－	15：30	研修医カンファレンス 1/month

○ 放射線科／核医学診療科／放射線腫瘍科の学習目標

一般目標または一般学習目標（GIO）

臨床医として適切な画像診断の依頼ができ、画像の成り立ちがわかる。基本的な画像の解析ができる。がん治療の中の放射線治療の位置づけがわかり、適応がわかる。看護師や診療放射線技師と協調でき、患者を中心に他科の医師とのコミュニケーションがとれる。

個別目標または行動目標（SBOs）

1. 医療における画像診断の役割について説明できる。
2. 依頼された検査の適応が判断できる。
3. 画像の成り立ちがわかる。
4. 頭部、胸部、腹部、骨盤の正常画像解剖がわかる。
5. 各種検査において、画像所見を述べることができる。
6. 異常所見を見つけることができる。
7. 放射線治療の目的別の適応が分かる。
8. 放射線治療の方法（外部照射、密封小線源治療、RI 内用療法）の特徴を説明できる。
9. 放射線治療の有害事象を理解し、説明できる。
10. 癌患者の倫理的、社会的な問題を考え指導医と討論できる。
11. 基本的な核医学検査を適切に選択し、実施できる。
12. 指導医の下で、基本的な核医学検査レポートを作成できる。

研修方略（LS：Learning Strategies）

画像診断では、指導医の元にて、主に CT、MRI のレポートを作成する。この過程にて検査の適応や、画像の成り立ち、正常画像解剖や異常所見についての知識を習得する。胸部や腹部においては指導医による小講義が毎週行われ、レポート作成では経験できないような疾患や画像所見についての知見も深める。研修の終わりには、経験した症例の中から１例を選び、症例についてのまとめをスタッフの前で発表する。放射線治療では、患者の了解を得た上で、指導医の外来診察を見学する。見学した患者について、レポートを提出する。放射線治療技師の業務を見学し、放射線治療の流れおよび品質管理の必要性を理解する。指導医の指導のもと、治療計画を立案する。このためには標的体積の概念を理解し、リスク臓器の放射線耐容線量を理解した上で、治療目的にそった標的体積および処方線量を決定する必要がある。核医学では、指導医の下で各種核医学検査の実施を経験し、核医学検査レポート作成を経験する。平行して核医学検査の理論、放射性医薬品、対象疾患、適応をミニレクチャーや教科書で学習しながら、実践的知識を身につける。

研修評価法（EV：Evaluation）

研修終了時に研修医本人による自己評価と、研修担当指導医による評価をそれぞれ行う。各行動目標の達成度につき、本人および評価者と確認する。

到達目標と評価表　【評価 A：可　B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 看護師や診療放射線技師と協調できる。	(　　)	(　　)
2. 各種疾患においての画像検査の適応、禁忌の判断ができる。	(　　)	(　　)
3. 基本的な画像検査について患者に説明できる。	(　　)	(　　)
4. 重要な異常所見について指摘することができる。	(　　)	(　　)
5. 指導医の下で、簡単な画像検査レポートを作成できる。	(　　)	(　　)
6. 静態核医学検査にて適切な放射性医薬品を選択し、静注できる。	(　　)	(　　)
7. 放射線治療の概略、適応、有害事象を理解できる。	(　　)	(　　)
8. 放射線治療技師の業務を見学し、業務内容を理解できる。	(　　)	(　　)
9. 治療計画を立案し、標的体積やリスク臓器を理解できる。	(　　)	(　　)
10. カンファレンスに積極的に参加し、意見を述べることができる。	(　　)	(　　)

研修に関する問い合わせ先

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
埼玉医科大学放射線科　　TEL：049-276-1265（医局秘書）　E-mail：radmini@saitama-med.ac.jp